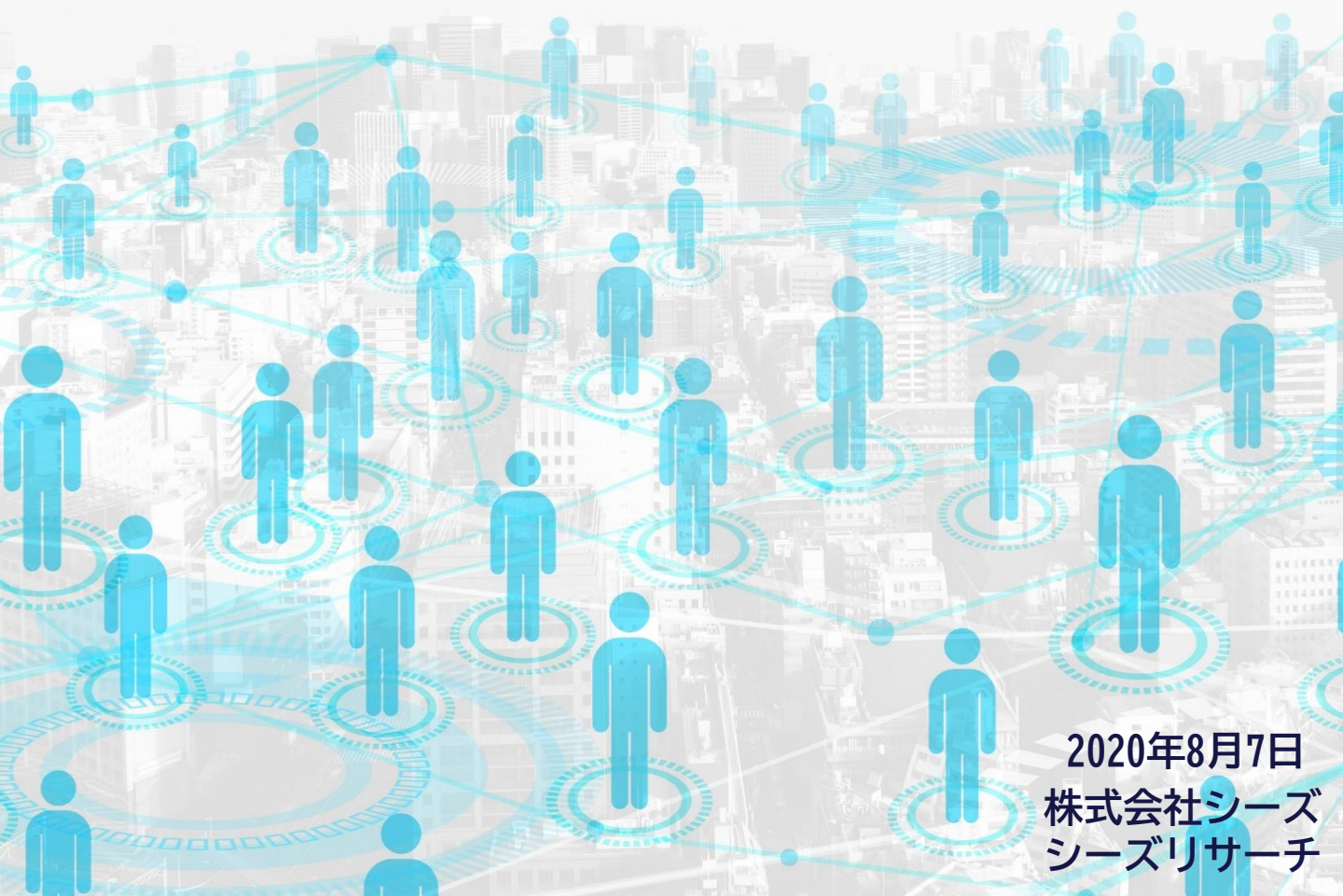


新型コロナウイルスに関する調査レポート 【第3回 パチンコに関する意識調査】



2020年8月7日
株式会社シーズ
シーズリサーチ

調査名

「新型コロナウイルス感染症に関するパチンコへの意識調査(第3回)」

調査目的

新型コロナウイルスに関するパチンコ遊技者の意識や行動を諮る

・調査方法

WEBアンケート

・回答者

【SC】 遊技経験者 4,795ss (遊技者 3,639ss)

※遊技者の定義(過去1年間にパチンコ・パチスロを遊技したことのある方)

【本調査】 緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技者(月1回以上) 500ss

・男女構成比

【SC】 男性78.0% 女性22.0%

【本調査】 男性81.4% 女性18.6%

・調査日

2020年7月29日

調査レポート項目

- 緊急事態宣言解除後の遊技参加状況【SC】
- 緊急事態宣言解除後の遊技参加状況(年代別)【SC】
- 緊急事態宣言解除後の遊技参加状況(頻度別)【SC】
- 新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減
- 新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減(年代別)
- 新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減(頻度別)
- 緊急事態宣言解除後に遊技回数・時間が減少した理由
- 緊急事態宣言解除後に遊技回数・時間が減少した理由(頻度別)

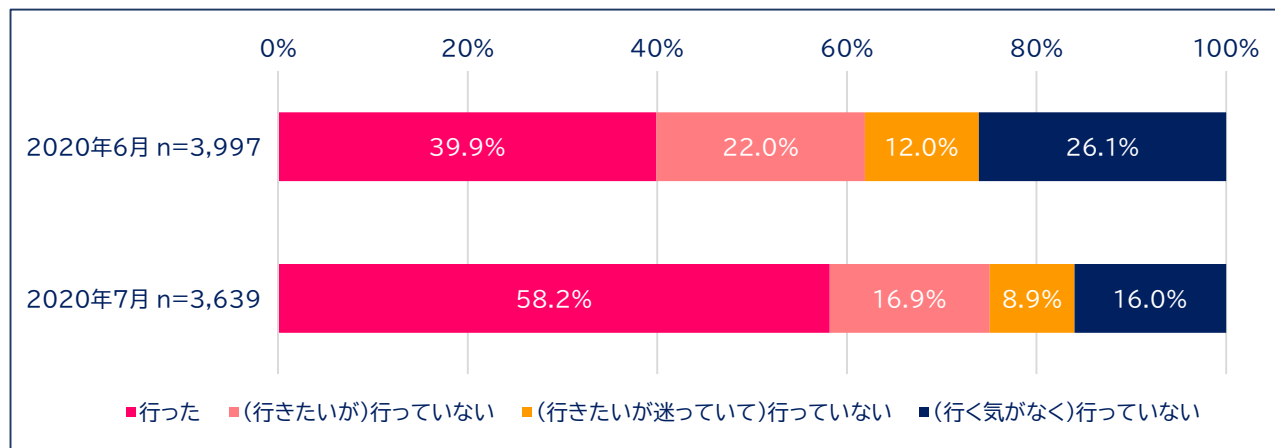
※調査結果は、小数点第2位で四捨五入しているため、構成比が100%にならない場合があります。

【調査会社】 株式会社シーズ シーズリサーチ
東京都台東区東上野2-20-1 晴花ビル2階
電話:03-6806-0548
メール:research@sees.co.jp

—緊急事態宣言解除後の遊技参加状況—

過去1年以内の遊技者に緊急事態宣言解除後の遊技参加状況を質問したところ、パチンコ店に「行った」割合は前回の6月の調査で4割程度だったが、7月時点では6割近くまで上昇した。

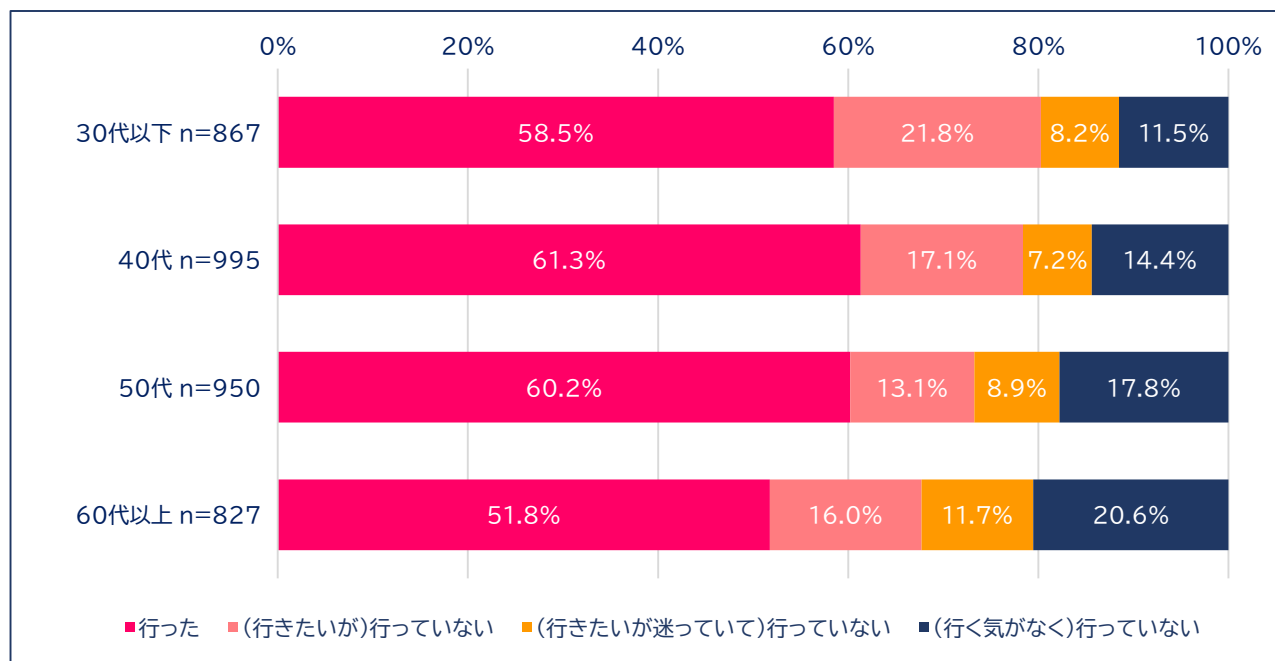
「(行く気がなく)行っていない」割合は26.1%から16.0%まで低下しており、遊技意欲へのネガティブな印象は低下してきている。



—緊急事態宣言解除後の遊技参加状況(年代別)—

7月時点の遊技参加状況を年代別で見ると、パチンコ店に「行った」割合について、30代以下から50代の約6割が「行った」と回答、60代以上は5割程度と他の年代よりも低い。

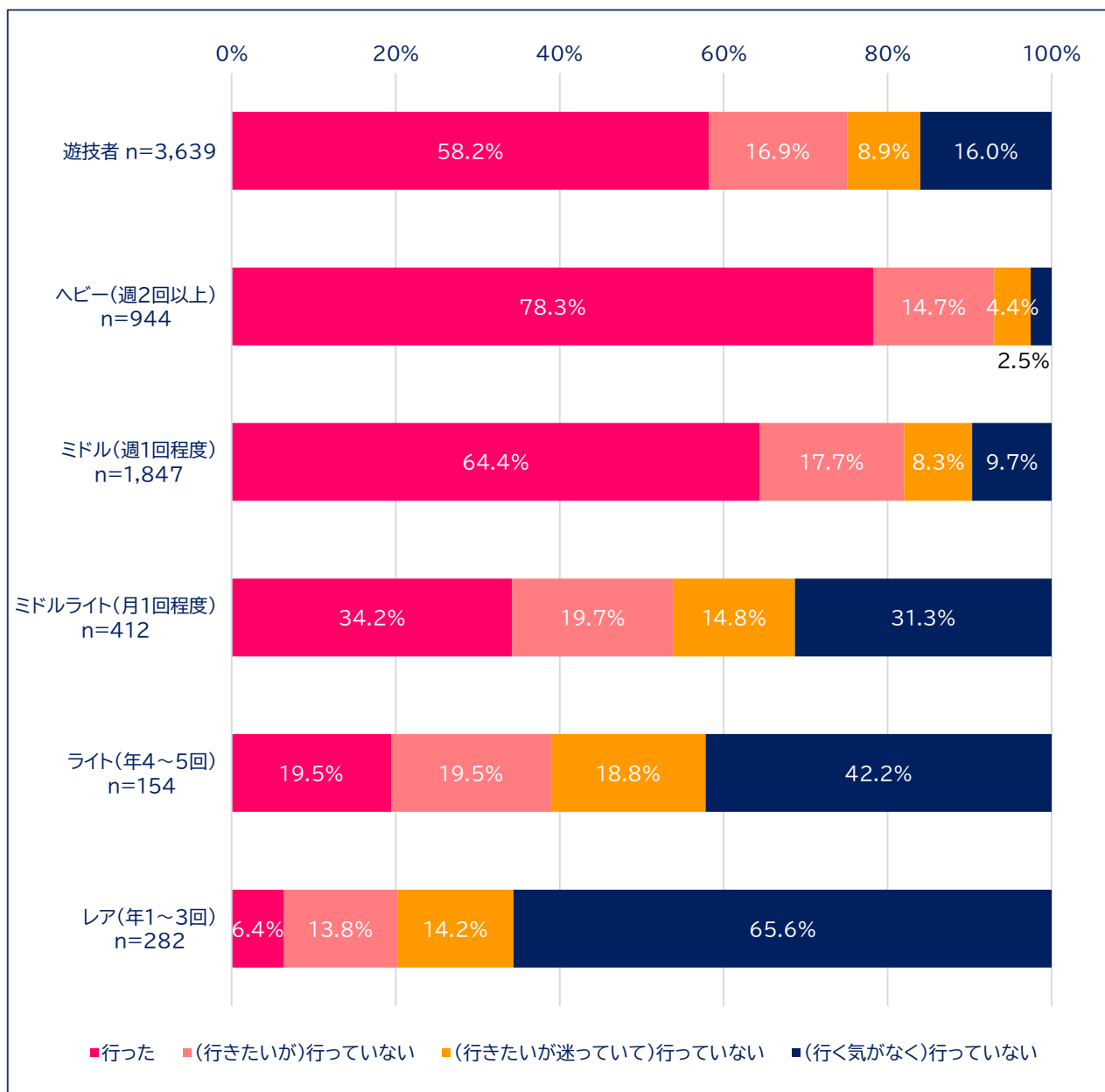
年代が高くなるにつれて、「(行く気がなく)行っていない」の割合が高いのは前回の調査から傾向に変化はない。



—緊急事態宣言解除後の遊技参加状況(頻度別)—

7月時点の遊技参加状況を頻度別で見ると、高頻度層ほどパチンコ店に「行った」割合が高く、ヘビー(週2回以上)は8割近くが「行った」と回答している。

頻度が低くなるにつれて「行った」割合が低下しているのは、元々の遊技頻度とも関係しているが、6月の調査ではヘビーの62.2%、ミドルの44.5%、ミドルライトの19.9%がパチンコ店に行ったと回答していることから、月1回以上の遊技者は前回よりも行った割合が1~2割程度増加傾向にある。

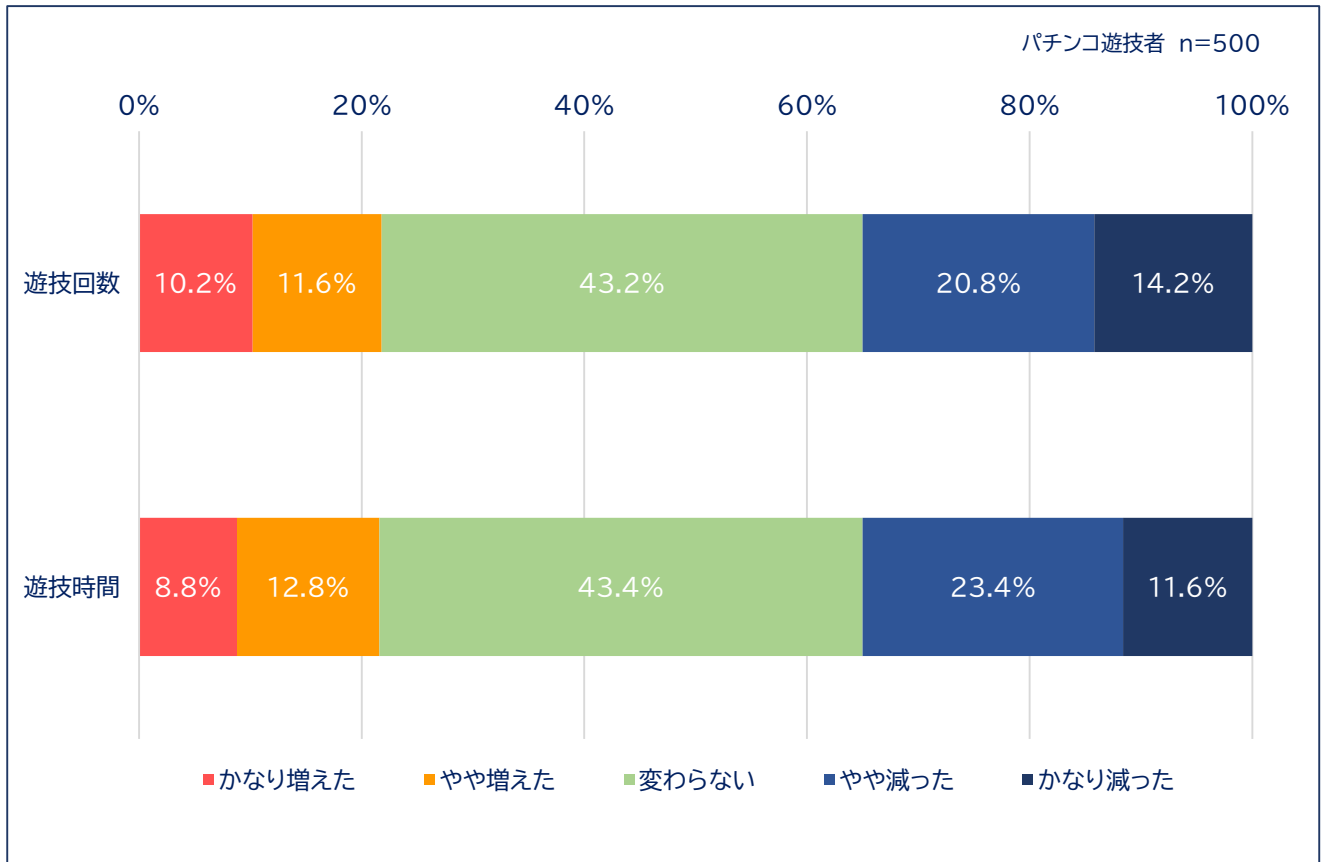


—新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減—

緊急事態宣言解除後にパチンコで遊んだ人(月1回以上のパチンコ遊技者)を対象として、新型コロナウイルスの流行前と比べて遊技回数や遊技時間がどのように変化したかを質問した。

遊技回数、遊技時間ともに「変わらない」が4割以上で最も高かった。遊技回数は「かなり減った」が14.2%と遊技時間よりもやや高かったが、遊技回数と遊技時間の回答傾向に大きな差はない。

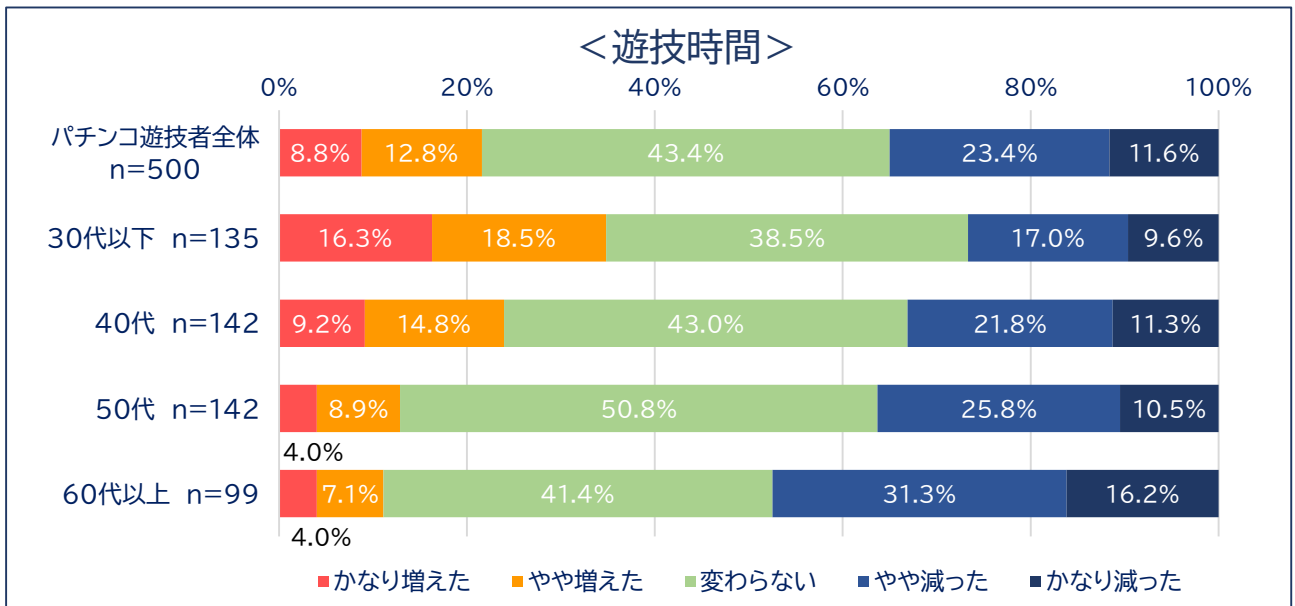
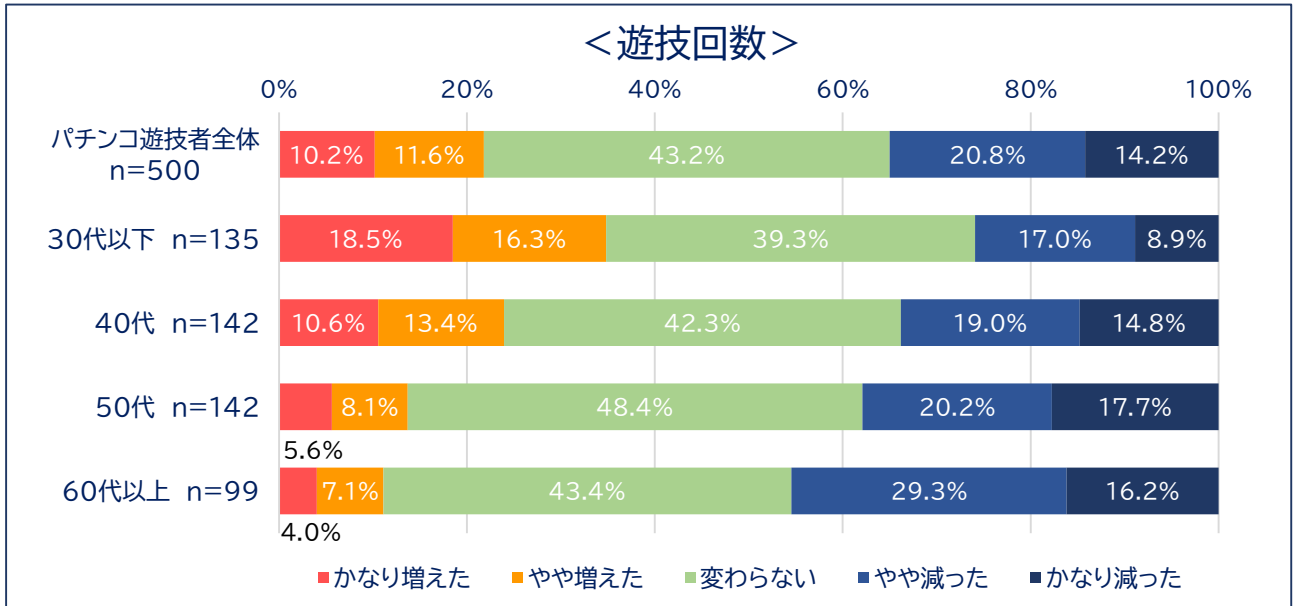
遊技回数や遊技時間は増えたよりも減った割合のほうが高く、緊急事態宣言解除後にパチンコで遊ぶ人であっても、遊ぶ回数や時間を抑えていることがうかがえる。



—新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減(年代別)—

緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技者(月1回以上)を対象に、新型コロナ流行前と比較して遊技回数や遊技時間がどのように変化したかを年代別でみたところ、若い年代ほど遊ぶ回数や時間の増えた割合が高く、年代の高い層ほど減ったと回答する傾向が見られた。

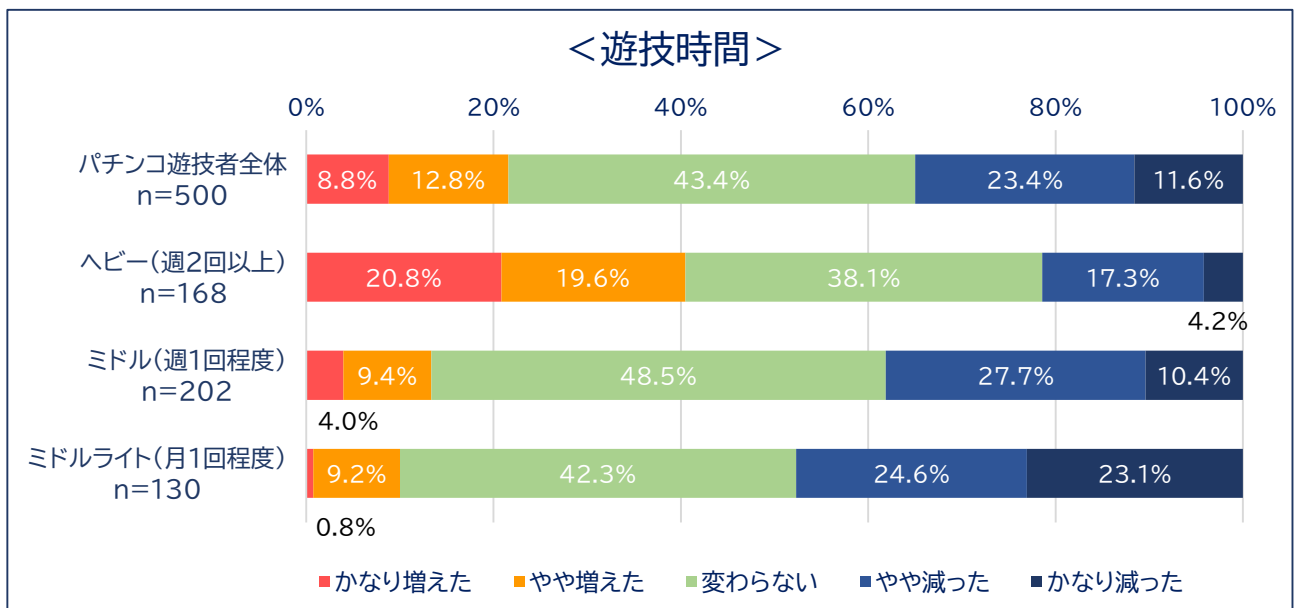
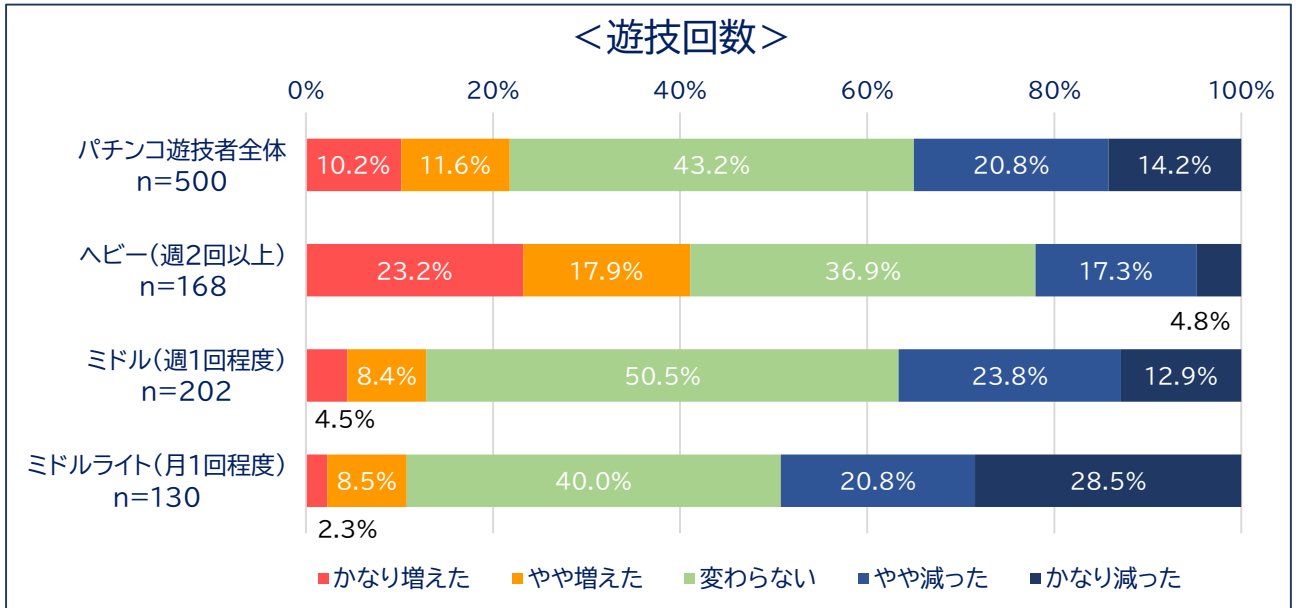
60代以上では約46%が遊技回数・時間ともに減った(かなり減った+やや減った)と回答しているが、30代以下では約26%となっており、年代別での動向に大きな差がある。



—新型コロナ流行前と比較した遊技回数・時間の増減(頻度別)—

緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技者(月1回以上)を対象に、新型コロナ流行前と比較して遊技回数や遊技時間がどのように変化したかを遊技頻度別でみたところ、高頻度層ほど増えた割合が高く、低頻度層ほど減ったと回答する傾向が見られた。

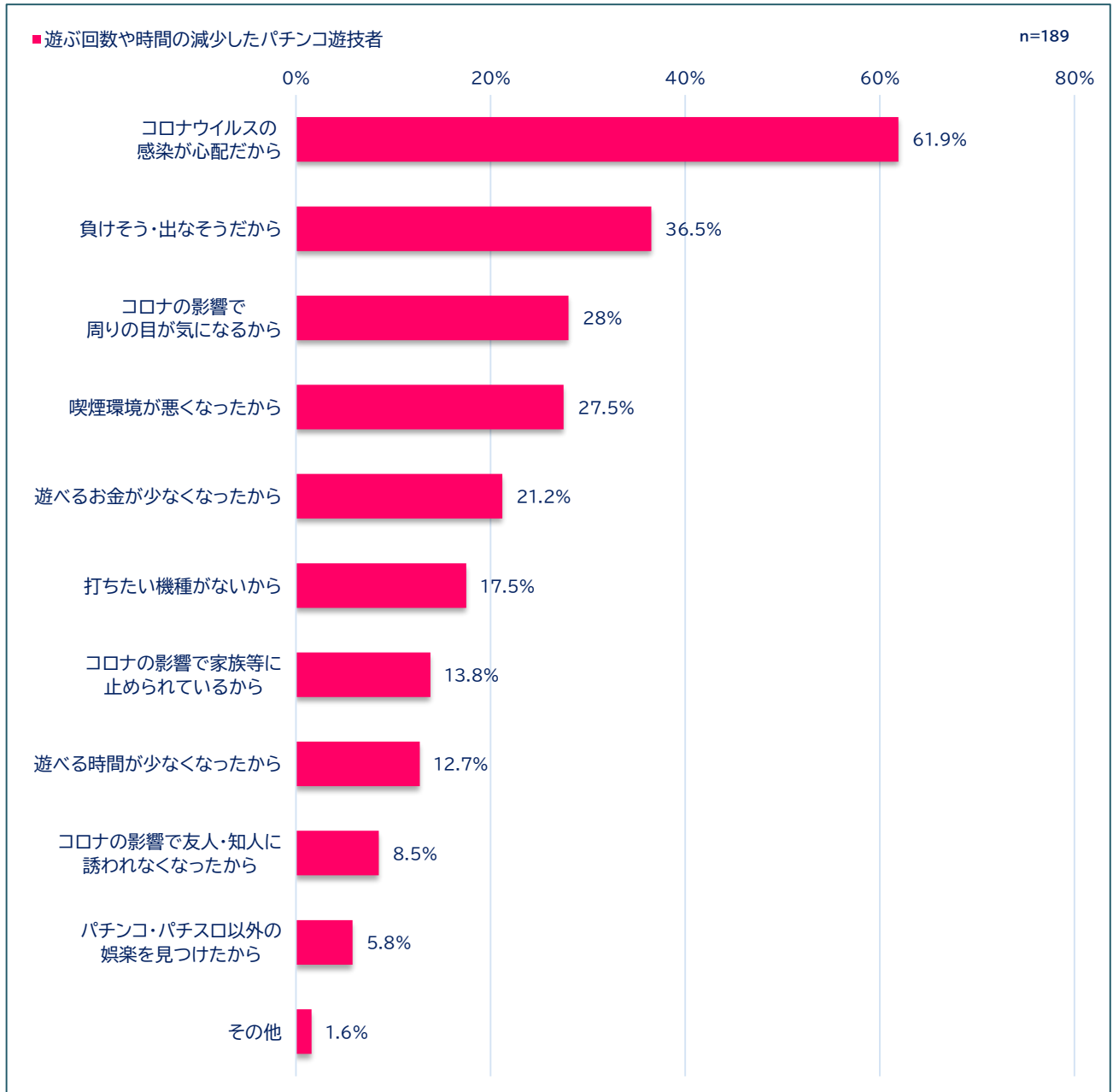
ヘビー(週2回以上)では増えた割合が遊技回数・遊技時間ともに約4割となった。ミドルライト(月1回程度)では減った割合が5割近くとなっており、毎月定期的にパチンコ店に足を運ぶ層でも遊ぶ回数や時間が低下していることがうかがえる。



—緊急事態宣言解除後に遊技回数・時間が減少した理由—

緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技者(月1回以上)を対象に、新型コロナ流行前と比べて遊技回数や遊技時間が減少した理由を質問したところ、「コロナウイルスの感染が心配だから」が最も高く、61.9%が減少した理由として挙げている。

2番目に高かったのは「負けそう・出なそうだから」の36.5%、続いて「コロナの影響で周りの目が気になるから」「喫煙環境が悪くなったから」となっており、3割近くが減少理由として挙げている。



—緊急事態宣言解除後に遊技回数・時間が減少した理由(頻度別)—

緊急事態宣言解除後のパチンコ遊技者(月1回以上)を対象に、新型コロナ流行前と比べて遊技回数や遊技時間が減少した理由を遊技頻度別でみると、「コロナウイルスの感染が心配だから」が週1回以上の遊技者で64.5%、月1回程度の遊技者で56.9%とそれぞれ最も高かった。

2番目に高かったのは、週1回以上、月1回程度の遊技者ともに「負けそう・出なさそうだから」となり、続いて、週1回以上の遊技者は「コロナの影響で周りの目が気になるから」、月1回程度の遊技者は「喫煙環境が悪くなったから」となった。遊技頻度別で減少理由に差が出ている。

